

賃金引き上げは社会の要請

今年こそ
賃上げの
実現だ!!



多くの労組が賃上げ・ボーナスアップを要求

今年4月の消費税引き上げ(5→8%)を前にした2014春闘は、賃上げ(ベースアップ)実現のムードが高まっています。

日本経済のデフレを脱するため、今年の春闘から、政府は賃上げの必要性を訴えてきましたが、労働組合の腰が重く不発に終わりました。そこで今回は秋の段階から経済界に働きかけ、新聞などマスコミも積極的に報道する中で、会社側も賃上げに前向きな発言をするようになりました。

労働組合側も、多くの大企業労組が加盟する連合が5年ぶりにベースアップ要求実施を呼びかけ、多くの組合が賃上げ要求を行います。また、好決算に対応して、トヨタ労組はボーナスを昨年より約30万円の上積みを要求(年間6.8ヵ月)、主要な大企業の組合は、ボーナスも0.5~1ヵ月程度の上積みを要求します。

賃金カットをやめるシャープ

経営再建中のシャープは2年前から賃金カットを行ってきましたが、2013年度は黒字転換することに対応し、賃金カット(一般職3%、管理職5%)をやめる方向が示されています。

2014.1.16「日経新聞」

労使交渉を巡る企業側のスタンス			
	現在のスタンス	ベアへの姿勢	
自動車	トヨタ自動車	「業績が良くなれば納税、報酬で報いるのは当然」(豊田章男社長)	😊
	三菱自動車	「経営環境もよくなってきた。ぜひ前向きに考えたい」(益子修社長)	😊
	富士重工業	「社員の努力に報いたい、その方法はよく考えたい」(吉永泰之社長)	😐
電機	日立製作所	「経済成長が維持され、個人消費が増えるよう貢献したい」(中村豊明副社長)	😊
	パナソニック	「業績改善なら賃上げが基本スタンス。賃金をどう配分するかは各社各様」(津賀一宏社長)	😐
	シャープ	「給与カットした分を一刻も早く戻すことが第一」(高橋興三社長)	😞
情報通信	NTT	「要求を待って真摯に議論する」(鷗浦博夫社長)	😐
流通	セブン&アイ	「グループにはベアを実施できるところとできないところがある」(鈴木敬文会長兼最高経営責任者)	😐
	ローソン	「ボーナスの上乗せで20代から40代の賃金を上げる」(新浪剛史最高経営責任者)	😐
金融	三菱東京UFJ銀行	一時金含む賃金総額の引き上げに前向き。ベア実施の可否は今後検討	😐
	野村証券	若手社員中心に平均で月例賃金の2%引き上げを検討	😊
	大和証券	若手中心に3%引き上げを検討	😊

(注)ベア実施の姿勢は予想

JAL はすでに ANA を上回る莫大な内部留保

JAL は、2010年に経営破たんしましたが、破たん直後から莫大な利益を上げ続けて再上場を実現し、完全に再建を果たしました。そして社員一人あたりの内部留保(会社が自由に運用できるお金)が、2012年度時点でANAを上回り、すでに莫大な利益をため込んでいます。

経営破たん前、最高益を上げた2007年度を100として、内部留保と社員の平均年収をグラフにしてみると、会社の回復ぶりと社員の落差にびっくりします。ANAも下がっていますが、これはJALの破たんや再建後の脅威をテコに社員を脅して実現したものです。

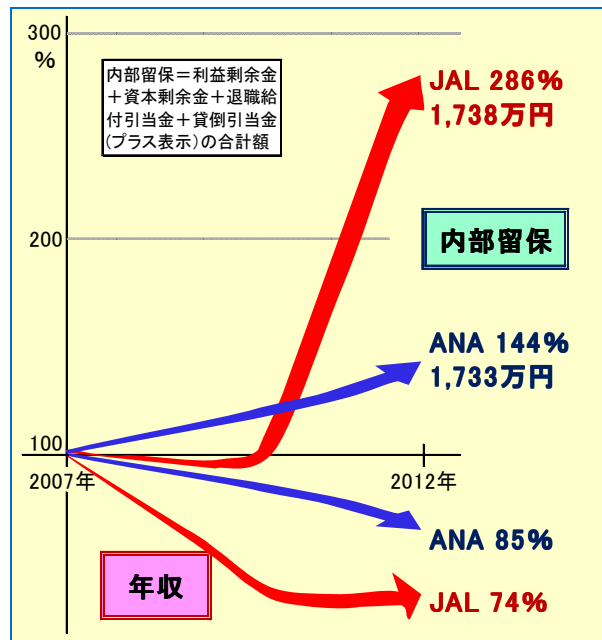
5%、3%の賃金・手当カットを戻すべき

再上場したJALは、1年目でANAの3年分を上回る株主配当を行い、今年も同様の配当方針です。一方の私たちは、経営破たん時に賃金と手当を、JAL本体で5%、グループ企業で3%カットされました。

日本社会全体で賃上げが必要とされる今、好調な業績を支えている社員に対し、先ずはカットした賃金・手当を元に戻すべきです。

裏面はJALの決算記事です

社員一人あたりの内部留保と年収の推移(2007-2012年度)



好調だったJAL/ANAの第3四半期決算

JALはまたも利益見通し上方修正 **+30億円**

1月31日、JAL/ANAグループの第3四半期決算(4/1~12/31)が発表されました。JALは営業収入が前年比+7.4%と、第2四半期の伸び率(+5.1%)を上回り、好調な決算だったと言えます。

第3四半期で計画より利益を30億円積み増せたことから、通年利益見通しを30億円上積みして1,580億円に上方修正しました。

決算見通しの上方修正は、上期に続いてのことです。昨年も上期、第3四半期決算発表時と上方修正され、最終決算でもさらに利益が上積みされました。今年はどうなるのでしょうか？

JAL/ANAグループ第3四半期連結決算

科目	JALグループ			ANAグループ		
	4-12月		10~12月	4-12月		10~12月
	実績	実績	前年比	実績	実績	前年比
連結営業収入	9,899	3,306	+7.4	12,120	4,144	+9.4
(国際旅客)	(3,313)	(1,091)	+11.3	(2,974)	(1,009)	+18.4
(国内旅客)	(3,749)	(1,232)	+0.2	(5,182)	(1,739)	+0.5
連結営業費用	8,524	2,890	+10.4	11,429	3,886	+12.1
連結営業利益	1,374	416	▲9.6	690	257	▲20.2
営業利益率	13.9%	12.6%	▲2.4pt	5.7%	6.2%	▲2.3pt

*営業収入~営業利益前年比の欄は増減%。営業利益率は前年差異ポイントを示す

通年決算は今年も上振れの予感

昨年は再上場に加え決算上方修正もあり、春闘で賃上げや期末一時金に対する期待が高まりましたが、結局は実現しませんでした。

しかし、春闘後に示された最終決算では91億円、JALグループ一時金約1ヵ月分も利益が増えており、春闘を前に見通しを低めに発表したとの疑念を持ちました。

今年の第3四半期まで、四半期毎の前年比収入伸び率は、第4四半期が(1~3月)が急に低くなっています。また航空券・旅行代金の前受金も第3四半期末時点(12/31)で昨年同期に比べて大幅に増え、上期末時点より増えるなど、需要の好調さが示されています。今年もまた決算上振れの可能性大であり、春闘での賃上げ、一時金アップ、期末手当の実現を目指しましょう。

13年度四半期決算前年比の推移 *第4四半期は見通し

		第1	第2	第3	第4
JAL	営業収入	102.6	105.1	107.4	101.4
	営業費用	106.5	109.3	110.4	108.0
	営業利益	70.1	91.4	90.4	55.5
ANA	営業収入	104.4	107.1	109.4	104.7
	営業費用	109.6	112.9	112.1	106.2
	営業利益	▲175	▲145	▲65	▲54

*ANA第1、第4四半期の営業利益は赤字のため前年との差額(単位:億円)を示す

連結決算の流動負債「その他」(前受金)の変化

		前期末 (3/31)	上期 (9/30)	第3 (12/31)	上期-前期	第3-上期
JAL	2012年度	1,215	1,283	1,240	+68	▲43
	2013年度	1,295	1,440	1,453	+145	+13
	差異	+80	+157	+213	+77	+56
ANA	2012年度	1,168	1,384	1,265	+216	▲119
	2013年度	1,269	1,552	1,486	+283	▲66
	差異	+101	+168	+221	+67	+53

通年収支見通しの推移 *当初は年度始め、今回は第3四半期決算発表時

科目	JALグループ			ANAグループ		
	当初	今回	今回-当初	当初	今回	今回-当初
営業収入	12,720	12,910	+190	16,100	15,800	▲300
営業費用	11,320	11,330	+10	15,000	15,200	+200
営業利益	1,400	1,580	+180	1,100	600	▲500
利益率	11.0%	12.2%	+1.2pt	6.8%	3.8%	▲3.0pt
自己資本比率	50.6%	51.6%	+1.0pt	37.9%	*37.3%	

*ANA*印の自己資本比率は第3四半期時点の数値(通年予想は示されていない)

JALもANAも春闘前に決算見通しを低めに出しているとしたか思えない。



JJ 宣伝ビラ No 11-03 2014年2月

発行：JJ 労組連絡会議

Tel/Fax03-6423-2461

日本航空キャビンクルーエコノム・日本航空エコノム
日本航空乗員組合・日本航空機長組合
日本航空先任航空機関士組合